

令和2年5月28日

保護者各位

千代田せいが保育園
園長 倉掛 秀人

6月からの保育について

6月1日からの保育再開にあたり、下記のような保育方針で実施しますので、ご理解とご協力をお願いします。乳幼児の特性から子どもの三密を完全に避けることは難しいのですが、新型コロナウイルス感染の予防に努めます。なお、登園のリスク判断は、日本小児科学会の見解も参考にしております（文末の「参考2」をご覧ください）。

記

- 1 朝夕の送迎での密を避けるために、玄関や保育室への入室の際には、前の方との間隔をとりましょう。そのために時間的な余裕を持って、登園や後園をしましょう。
- 2 幼児の遊びはできるだけ分散して遊べるように、興味や関心に応じて選択できるゾーン保育のメリットを活かしますが、厳密に子ども同士の距離を離すようなことはしません。
- 3 手洗いや手指の消毒は、登園のあと、外から帰ったら、食事のまえ、トイレのあとなど適宜行います。
- 4 食事中はあまり大声を出して喋らないように促します。
- 5 こまめに換気をしながら保育をしますが、屋上やテラスなども活用して過ごします。
- 6 子どものマスクは基本的には使用しません。また年長児が年度の後半に、小学校の習慣になれるように自己管理の練習のために着用することになるかもしれません。
- 7 バス遠足は当面、実施せず、東京都の解除段階などを踏まえて検討します。
- 8 家庭生活が長なったので、急に長時間の園生活が始まると疲れやすいかもしれませんので、数日かけて時間を延ばしていくことをお勧めします。

以上

（参考1）

・厚生労働省の感染データによると、他の世代に比べて乳幼児の感染数は少ないことがわかっています。また日本医師会や日本小児科学会は新型コロナウイルスによる罹患リスクと同時に、長い自粛に伴うリスクも心配していました。

・一方で保育園に預けることが不安な方もいらっしゃると思います。そういう場合は、しばらく様子を見るために休んだり、保育時間を短くしていただいても構いません。千代田区もそういう考えですし、6月の乳児の保育料は日割り計算になっています。

(参考2 日本小児科学会の見解)

https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=326

Q9. 保育所、幼稚園、学校などに行くことは控えたほうが良いでしょうか

A: 子どもへの感染の多くは同居している成人（保護者）感染者からの伝播によるものです。現時点（2020年5月1日）では保育士からの子どもへの感染や子ども同士の感染は少なく、保育所、幼稚園、学校などへの通園、通学を自主的に控える理由はありません。しかしながら、地域で子どもの患者が発生した場合、またはそれが想定される場合には、一定期間、休園や休校になる可能性があります。今後の流行状況に応じて、臨機応変な対応が必要となりますので、お住まいの地方自治体からの指示に従ってください。

また、各家庭内で感染者がでた場合は、その子どもは濃厚接触者として登校、登園を控えることになります。また、厚生労働省から微熱や風邪の症状がある場合は、登校、登園を控えるようにとすすめられています。それらを守っていただくことが大事です。